

●インタビュー
初の自選画集「私の曼陀羅」刊行によせて

私の絵は、八歳の 絵なんですわね。

須田 剋太

〈洋画家〉



十牛図より「尋牛」

『正法眼蔵』に触発され、私の絵の道が始った

須田 先生は、このほど自選画集『私の曼陀羅』を出されましたが（光琳社出版刊・九八〇〇円）、これは、これまでに描いてこられた具象画の集大成ですね。

須田 ええ、そうです。さらに、もう一冊、すぐその後に出るんです。朝日カルチャーセンターで造形について講演したんですが、それを中心に集めた『私の造型—現代美術』が出ます（大阪書籍刊）。私が計画したのではなく、偶然に絵と理論の本が揃った。面白いことだと思うんですよ。

先生の作品には『私の曼陀羅』に収められた具象画がある一方、抽象画も同時に描いていらっしゃるんですね。抽象と具象の両方をやる方は、あまりいらっしゃらないのではないですか。

須田 そうですね。一人の作家で抽象と具象を両方やっているのはいないですね。批評家によっては、両方やってはいかないという人もいます。しかし長谷川三郎はそうではなかった。両方ともやれと言った。ずっと前に、私が抽象か具象かを迷ったときに、長谷川三郎に、それなら君、道元の『正法眼蔵』を読んでみたまえ、と言われ

たんです。あのなかを見たら、生と死、善と悪という互いに矛盾した存在が常に存在していると書かれている。だから絵画においても抽象と具象の両方をやって当然だし、それが出来なければ駄目だと言われた。それで、私はあつと思つて、それなら両方を今でもやっているんですよ。

先生は、司馬遼太郎先生の『街道をゆく』（週刊朝日連載）シリーズの挿絵で、昨年、講談社出版文化賞を受賞なさいましたが、これも具象の世界ですね。

須田 これも偶然に起こったことなんです。以前、犬養道子さんが芦屋にいたでしよう。ご自分のお祖父さんの犬養木堂の伝記を毎日新聞の夕刊に書かれる頃なのですが、芦屋近辺の画家に挿絵を頼もうということになり、私が犬養木堂を非常に尊敬していたので、じゃ描きましようということになった。それまでは具象で挿絵なんか描いたことがなかったんです。一年間つづきましたね。ヨチヨチした子供のような絵だったんだけど、あれをやったために須田は具象も描けるのではないかということになり、『街道をゆく』の挿絵を引き受けることになったんです。このシリーズも十五年になるんですよ。

長いですねえ。始まったのが、ついこの間のことの



これまでの足跡を語る須田画伯。「正法眼蔵」との出会い、様々な人々との邂逅が縦横に語られ、興味が尽きない。

ような気がするんですが。

須田 いつの間にか十五年、たっちゃいましたよ。これも自分が計画したのではなく、偶然なんです。まあ、なるようになるというのが自然でしょう。

私は今、抽象と具象と両方やっているの、忙しいんですよ（笑）。ただ今は抽象をあまり描けないのですが、やるときは徹底してやる。具象もそうです。ですから、いつか誰かが、須田は抽象も具象もいって言ってくれたら私は満足なんです。どっちも悪いって言われたら困

るんですが（笑）。

——先生が抽象と具象の両方をやることになったについての背景をもう少し伺いたいのですが。

須田 どうしてかと言うと、すべて人生のことについては何でも、一方的では駄目なんです。実は。そうでしょう。音楽にしても、古典もやらなければいけないし、前衛的なこともやる。両方はいつも矛盾しながらも平行して存在しているんですよ。抽象と具象とは決して一緒にはならない。ならないがこそ矛盾しているんですよ。われわれのなかにも、善と悪がある。善いこともやるが悪もあるということ意識していないといけない。善と悪、男と女、生と死、これらはすべて矛盾した存在でしょう。しかし現に存在する。たとえば、生きている以上、必ず死ぬでしょう。これは生まれたときから分っているのだけれど、しかし死が来たら悲しい。悲しいまいために生をうんと生ききればよい。そういう感じが今、ありますね。

子供時代、普通の男の子がやるのが出来なかった

——先生は明治三十九年のお生まれですが、どちらのご出身ですか。

須田 埼玉県の吹上町なんです。もともと関東人なんです。関西へは昭和十六年に京都へ出て来たのが最初です。それから、もう四十年もこっちにいるのに大阪弁がしゃべれないんです。吹上町は北関東。国定忠治が出たところだし、カラッ風とカカア天下（笑）。上州気質が今でも直らない。大阪弁を使うとおかしくなるんです（笑）。

私の父は土地の小学校長をしていたのですが、祖父は宮大工なんです。名人気質の人だったんですが、明治の初めに百姓になった。父は埼玉師範学校の第一回の卒業生なんです。当時としては進歩的な男だったのではないですか。四十年近く郷里の吹上で教鞭をとり、世話好きでいろいろな人を育てたようで、今も吹上小学校には私の父、須田大五郎の顕彰碑が建っています。



▶「ひまわり」(私の父陀羅「所収」)

もともと私の家は、比企能員(鎌倉初期の武将)の輩下なんですね。頼朝の乳母比企禪尼の嗣となった人ですが北関東一帯を支配していた。祖父は比企能員を祀った神社を造ったのだから、すぐれた文化人であったのかも分りませんね。僕はその血を引いていると言えるかも知れないね。造形をやり出したのだから。

母方は、父親が上野の彰義隊に敗れて百姓になったという家です。弟は、身体は父に似ているのだけれど、精神はおふくろに似ている。私は身体はおふくろに似ているのだけれど、精神はおやじ似なんですよ。

先生が絵をやりうと思われたのはいつ頃からなのですか。

須田 中学生のときですね。熊谷中学校を昭和二年に卒業しますが、三年生までは私を入れて四人が常に主席争いをしていました。ところが病気を患ってしまった。勉強が厭になり、絵の方へ走ってしまった。お情けで中学校を卒業できたんです(笑)。

私は生まれたときから弱かったですね。弱くて病が強く、引付けを起こしたり、三歳までもたないだろうと言われたぐらいに弱い子だった。普通の男の子がやることが出来ない。運動が出来ない。そういう子供だったんですね。たいがいの子供は、ある年齢に達したら働い

て食べるということを考えるでしょう。ところが今だにそれが無い(笑)。つまり、経済観念が全然ない。まるでホーツとしている(笑)。小さい頃から絵が好きで、花魁の絵をよく描いていました。父のところへ女の先生がよく来るのですが、呼ばれても行かない。何故かという女の方へ行ったら子供が出来ると(笑)そう思っていた。そういう子供だったんです。小学校のときも、そばかすのある女の子やにきびのある男の子が好きだった。今考えてみると、それは造形なんですよええ。

それで中学校を卒業して美術学校を受けるのですが、四年とも駄目だった。とうとう、こんなに病のある絵を描く子をこの学校は採らないと言われて腹が立ち、学校へ行くのをあきらめてから私の絵の道が始まります。

姉が浦和にいたので、昭和二年から十六年までそこにいて、その暮に京都で飯寅、関西での生活の始まりです。

純白のドレスとバラソル姿の妻に一目惚れ

その間、昭和十四年に「読書する男」、十六年に「神将」がそれぞれ日展の特選に入っておられますね。京都から今度はこちらへ。

須田 京都へ行ったのは、もともと法隆寺の壁画を見るためだったのですが、あるとき新薬師寺に行つたときにすごく感動して、そこで下宿する格好になったんです。昭和十六年といえば、もう三十九になっていた。もう一仕事すべき年齢なのに、絵画がどういふものか本当に知らなかった。浦和では名画を見る機会もなく、画家の先輩もいなかった。だから遅れてしまったんですね。結婚したのも四十近くなんです。

——ちょうど奥様の静さんもお顔を見せられましたので、奥様との出会いのお話を……。

須田 ここに愚妻がいますが(笑)、私が新薬師寺に籠って十二神将の一体を描いていたときに、この人が奈良に來たんです。夫に先立たれていたのですが、えらい人の紹介で奈良へ仏を描きに來ていた。私は貧乏絵画きと



須田画伯のアトリエは、混沌とした宇宙空間そのもの。雑然さの中に不思議な秩序がある。

して十人ぐらゐの画家と一緒に寺に寄寓していたんです。私が描いている仏を描きたいと、生意気なことを言うので(笑)断ってやろうと思っていた。ところが、ちょうど、初夏の頃に純白のバラソルと純白のドレス姿だったんです。すれ違った瞬間、あっ、綺麗な人だと、恋心を少し覚えてしまった。そのときに神将の絵の素描をあげたところ、お札の手紙が来たんだが、万葉仮名で書かれていたので読めない(笑)。人に読んで貰ったら、君、これはラブレターだ、阿呆らしくて読めんよと言われた(笑)。読める文字で書いてくれと言ったら、今度は普通に書かれた手紙と一緒に、フランス人形が送られて来た。これはただごとではないと思いましたね(笑)。この

人は私の絵に惚れたんだと言っています……。

静 私には藤島武二先生を尊敬していましたが、藤島先生のようなタッチで描いていたので、こういう人に絵を教えて欲しいと思ったんですよ。

——でもまたどうしてフランス人形を。

静 実は私が関西でフランス人形を流行らせた元祖なんです。亡くなった主人が私に、人形づくりは誰にでも出来るからやりなさいと奨めてくれたんです。当時、新聞やラジオでも紹介されたんですよ。

生命感がなければ、それは絵とはいえない

——先ほど、抽象と具象の両方をやっておられるのは『正法眼蔵』に触発されてのお話ですが、先生の人生哲学の背景には、道元の思想があるということですね。

須田 『正法眼蔵』の中には、大変重要なことが書かれています。つまり、すべての行動は、文学的な言葉で、たとえ百万言を尽やして言っても駄目だということですね。知識偏重では駄目だ。実際に体験してみなければいけないということをやっている。絵を描くのも同じ。口であれこれ百万言いっても駄目。実際に色で出し、線で出さないといけないということですね。

絵を描くときに一番重大なのは、生命の存在です。生命感が絵の中にちよつとでも出しておればいいのです。それが出ていないと、それは絵ではなく実用的な模様、イラストですよ。少なくとも芸術といわれるものには生命感がなければいけない。私は絵に、哲学と宗教を入れたんですよ。宗教的実体がないと絵が心細くなる。

宇宙生命体全体実体というものがある。植物でも虫けらでもすべて生きているでしょう。石なんかは違いますよ。こういう宇宙生命体全体実体が一にまとまれば、それは神といえは神なんだけれども、一つだとやがて滅びてしまう。だからバラバラに微塵にくだけて分かれてしまった。今しゃべっている私も、私の話を聞いているあなたも、みんな宇宙の微粒子なんですよ。それを虚構



自宅の庭で夫人の静さんと。「アトリエを掃除しようと思って怒るので放ってあるんですよ」。その言葉には、永年共に歩んで来た須田画伯への思いやりが感じられる。

なくなる。僕らが見ると当たり前になっってしまうんです。私は八歳から抜け切れていないんですよ（笑）。いくら描いても嬰孩性があるんです。

嬰孩性とは鈴木大拙が「日本靈性的自覚」という言葉でいつている幼な心のことですね。写楽や山下清の絵、さらに山頭火の句にもそれがあると思う。たいがい八歳ぐらいで失ってしまうものです。私はこれから描く絵にも嬰孩性をもたそうと思っているんです。

——そこには感動があるわけですね。

須田 そう、感動をもちたいですね。感動を知らなければ駄目ですよ。文学だって音楽だって生花だってそうですよ。嬰孩性のあることが僕の誇りなんです。写楽の絵、円空の彫刻、日隠の書画、良寛の楷書、北魏の書、日本縄文記号などすべて嬰孩性ですよ、熊谷守一の絵も。

私の絵の強味は、ものをそのまま写生するのではなくいったん造形化することだと思います。実物を見はするが、ある形をつくっちゃう。その方が、かえってものにとられないし、生命感が出る。生命感といっても強いばかりではなく、弱い感じを与えることも必要です。私の絵は、俗にいう上手い絵じゃない。だけど何か感動させるところがあると思う。もちろん私の絵を嫌いな人もいらっしやる。しかし私の絵に惚れ込んでくれる人は、大変に惚れ込んでくれる。やはり私の絵は、一種の特異児童のそれでしょうね。僕はそれを「差違」って言っているんだけど、今の風潮の中で、差違が認められて来たのかも分らない。八方美人じゃないんです。

絵の中に、上手さと下手さが両方出たらいいと思っっているんです。そんなこと出来るものかと言われそうです。が、上手さと下手さが両方なければいけないという考えが私にはある。とにかく一方しか出来ない人間は駄目なんだ。私は抽象も具象もやる。両方やって来て、もう七十八歳になってしまった。でも七十八とは思っていない。まだまだやりますよ、まだまだ。

私は今後も嬰孩性を失わずに描きつづけたい
——先生の絵を見ていると、線一本からでもすごいエネルギーを感じ、見ている方も元氣になりそうですね。
須田 妻は私のことを特異児童だと言いますが（笑）、一般に八歳ぐらいまでは描いた絵が稚拙ですね。ところが、その年頃の子供は、驚天動地のものを描くことがある。真紅のあやめを描いたりする。中学生になると面白

Most Beautiful Quality Life

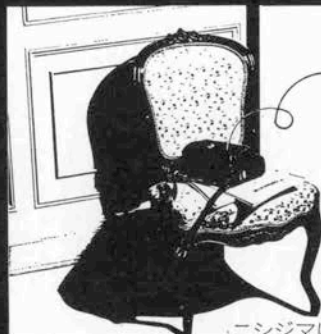


創業明治十六年

金 柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 TEL(078)341-0693
大阪・高麗橋2丁目 TEL(06) 231-2106

バッグ・帽子も洗えます。



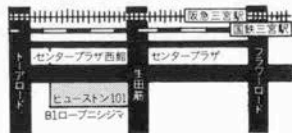
手にもつバッグは
手アカで
汚れています。
一度ニシジマで
リフレッシュして
みませんか。

ニシジマにご相談ください。



● サービス内容 ●

- 型くずれの防止 ● 素材感の回復 ● お客様のお好みに合せた仕上
- カルテの作成 ● ファッション、クリーニングの最新情報の提供



神戸市中央区三宮町2丁目10番7号
ヒューストン101 ☎(078)332-2440

神戸ブランドで彫刻作品を 世界に輸出しては。

□ 出席者 □

柳原 義達 〈彫刻家〉

増田 洋 〈美術評論家・
県立近代美術館館長補佐〉

速水 史朗 〈彫刻家・
宇部市野外彫刻美術館賞受賞〉

増田 正和 〈彫刻家・
神戸市文化賞受賞〉

小林陸一郎 〈彫刻家・
神戸市文化賞受賞〉

松尾 光伸 〈彫刻家・
神戸市教育委員会賞受賞〉

10月1日、第9回神戸須磨離宮公園現代彫刻展のオープニングセレモニーが盛大に開かれ、11月10日まで展示されます。今回は、都市と彫刻について、市民生活の安らぎの鍵となる街づくりをテーマに、夢のある自由なお話をお願いしたいと思います。

ひやろうということになり、増田洋さんや赤根和生さんたちの力添えもあり、東京からも評論家に加わってもらい、この彫刻展が何らかの形で、神戸の街づくりに役立てばという意気込みで第一回が開かれたんですね。

増田（洋）「夜（光）、風、水」がテーマでしたが、残念なことに神戸の地元作家の出席がなかった。

★市民生活により身近になってきた神戸の彫刻
柳原 今回で神戸須磨離宮公園現代彫刻展も9回目を迎えたわけですが、これは1968年からビエンナーレとして定期的に開催されてきて、16年の蓄積を経て、現在に至っています。当初、宮崎辰雄神戸市長が「神戸を緑と水と彫刻の街にしたいんだ、それにはどういうふうにするればいいだろう」と、私に相談をもちかけられました。とはいえ、神戸には神戸の事情があり、その頃、美術評論の第一線というべき存在だった土方定一さんに、

柳原 第一回が始まったけれども、最初、神戸市が考えていた彫刻展は実は具象だったようで、抽象彫刻が集まったので多少のとまどいがあったと思いますよ。

宮崎市長の意向を伝えました。そして、結果的には、ぜ

速水 私は、第一回展を見て、関根伸夫さんの作品が強烈に印象に残りました。私も出展したいなと激しく感じましたね。しかし、当時はコンクールがなかったわけではじめてコンクール制度ができた。この時は本当、複雑な心境になりましたよ（笑）。



増田 洋さん



増田 正和さん



小林隆一郎さん

柳原 最初から、非常な熱気が感じられましたね。神戸を緑と水と彫刻の街にするんだという熱意というか、あつちものがあつて、今日に至っている。だんだんと、彫刻が市民生活にとけこんできて、身近な存在になってきたなと感じています。市民の方としても、親しみをもって生活の背景として、あるいは街の緑と同じような感覚で接しているような場面にであうことも多くなった。

確かに日本は彫刻をうけいれやすくなつてきてはいるけれどもヨーロッパとの大きな違いがあります。つまり、ヨーロッパ、特にドイツなどは造形に対する自分たちの精神のあり方というのが、根本的に異なるんです。何か、生まれつきの哲学的なものをもっているわけですね。そこに日本との大きな開きがあり、若干の疑問も感じていますね。日本の経済発展を象徴するような巨大な作品群が生まれ、日本独特のパワーが日本の彫刻水準を急激に高めていって、少しずつ理性をもちはじめてきています。おそらくは、日本の彫刻界は国際的にも充

分、通用するようになるでしょう。

増田(洋) 第一回のテーマは、光と風と水で、作品を見てみんなびびくりしたわけですよ。ネオンやらステンレススチールやらが、キラキラしていて、彫刻が「石」だと考えていた市民の側からすれば、これはもう凄じカルチャーショックだった。わけはわからないけど、実に面白いこんなユニークなものが彫刻か、と(笑)。

これで神戸の人々は洗礼をうけたわけですね。

それに、今までずっと統一のテーマを設けてきたわけですが、作家側にとつてのテーマというより、見る側、つまり神戸の市民サイドにとつてのテーマだといえますね。彫刻という存在がいかに市民生活との関わりを保ちうるかと今までの16年の模索の中で方向をさぐりつづけてきたわけです。コンクールで出てきた作家たちも、その後の活躍がめざましいのは嬉しいですね。さきほど柳原先生の話でも、外国と比較もありますが、外国の場合は、自国の作家を送り出して、逆に他の国の作家を呼ん



柳原 義達さん



速水 史朗さん



松尾 光伸さん



10月1日に行なわれた受賞式

でくるといふ国際性が伝統的にあります。速水 宇部市野外彫刻展では、主催者側の方針として、国際的活動をすすめています。宇部では、姉妹提携しているオーストラリアへ作家を送り出しています。これはなかなかできないことです。

松尾 作家の側からすると、私など、何故、わざわざ東京から神戸へやってくるのかという根拠が問題になるんです。第一は、須磨離宮の公園が実にすばらしいこと、あの公園に神戸らしさのエッセンスがあると感じています。ヨーロッパで研修してきた作家にとって、あそここの明快な空間は大きなインパクトを感じる、つまり、海の全景が80度いっぱいに広がり、山が控えて、緑がこよなく美しい、ここで自分の作品を展示すれば、まず日本のどこよりも、ベストの状態で見ることができるのではないかと、というイメージがあります。自然そのものに、いろんなすばらしい要素があり、神戸という土地柄がとても洗練されていて、多くの人々が見にくれる、だから東京からもたくさん応募してくるのは当然なんです。

★都市の中でひとり歩きを始めた彫刻作品たち

柳原 今日神戸市文化賞を受賞された環境造形Qの3人の方は、神戸とともに歩んできた作家といえますね。山口牧生さんはここにおられないけど、増田正和さんと小林陸一郎さん、本当におめでとー！
小林 どうも有難うございます。

増田 (正) 恐縮です。

柳原 いや、最初にその話をすべきだった(笑)。おめでとーが、あとになってしまいました、乾杯をしましょうか。

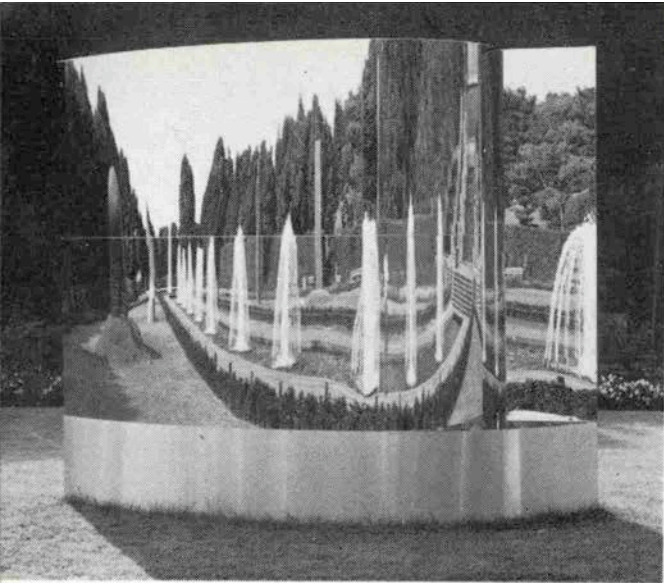
全員 乾杯！

速水 私は香川県での県展に出していて、ちょうどその審査員を柳原先生がされていたんですね。柳原先生にお会いして、先生の助言で具象から抽象へと彫刻の道へ入ったんです。どうもハメられてしまった感もあります(笑)。私の住んでいる四国では、先祖から石との関わりが深く、お地蔵さまとか、道標が実に多くて、少年時代から道とともに出会ってきたわけです。私は思うのですが、現代の彫刻の役割というのは、このお地蔵さまや道しるべであり、これらが街に与え親しんでいくこと、そして、作家は道標をつくらなければならないということなんです。私の作った「太陽の門」が今、三宮のフラワーストリート三和銀行前にありますが、すぐ下にサンチカがあつて、三宮のあの周辺での道しるべを担っていると考えているんですね。現代の都市空間の中の道標だと。

やはり、現代彫刻は限られた空間にあるのではなく、人ともにあるものだと思います。神戸の彫刻展は20年がかりで積みあげたものですから、私も神戸とともにあり、神戸へくると街中の私の作品や作品を通じて知りえた人々に会えるんです。嬉しい気分ですよ。

柳原 太陽の門が道しるべになったのは、すばらしいことですよ。それが、本来の彫刻です。

速水 もう一つ、傑作な話があります。東京都美術館をいただいた黒い石の彫刻なんです、東京都ではこれを引きとらないで、結局、神戸市がうけ、新長田駅前の都市整備のシンボルとして据えつけられました。ちょうど、ドーナツ形で真中がくりぬいた作品ですが、設置されたあとで、いつのまにか、隣に、ミスター・ドーナツができたんです。だから、彫刻の真中を通してみるとドーナツ形の向うに、ドーナツ屋さんがある(笑)、これ



神戸市長賞（大賞）受賞の「風景船」（小田寛さん）

が大繁盛していて、子どもがワイワイ、ドーナツ、ドーナツいうて遊んでいるんですよ。

柳原 アハハ、本当ですか。面白いな。展覧会が終って彫刻がひとり歩きを始め、市民の日常生活の中に自然にとかこんでいく、いい例だなあ。

増田（正） ポートアイランドの北公園にある私の「ザブトン」は、いい場所に据えてもらったと思っています。しかし、ちよつと不満もあるんです。作品に腰をおろして、港や街を眺めてほしいのですが植えこみが邪魔をしています。

柳原 増田洋さん、我々も反省しなきゃならんすな。置くべき場所と作品自体のひめている置かれた環境の中での親和性とを、最適の条件で関連づけていくべきです。ドーナツの例のような意外性も含めて。

松尾 これは提案なんです、諸外国の大都市、特にヨーロッパなどには、歴史をもった本格的な公園があり、アメリカでは大企業の建物のランドマークとして、そこにシンボリックな彫刻が置かれています。須磨離宮で

の彫刻を諸外国や神戸の企業に神戸市が、貸しつけてもいいんじゃないでしょうか。

増田（洋） 神戸電々の建物の東側に置かれている関正司さんの作品は、電々公社が購入して設置したものです。電々側を背中に向う側をみると、ちょうど旧市街が美しくノスタルジックに一望できます。これは、他の企業も参考にしてほしいイメージづくりですね。

増田（正） あれは大変いい場所ですね。

増田（洋） 松尾さんの意見について、景観条例という面もあるけど、まず一番はじめに神戸市の職員がアタマの切り換えをしてもらわなければ。

増田（正） 多田美波さんの作品が、最初大倉山に置かれていたのと、現在のフラワー・ロードとでは、えらい違いですよ。場所を変えることによって彫刻が生き返ったよい例です。

小林 永久設置でなくて、移動可能な形で置いて、本当にふさわしい場所を発見できるまで捜すくらいの努力はしてもいいんじゃないですか。作家もモニュメンタルなものを必死でやるのでなく、楽しんで作ってほしいですよ。須磨離宮でも、いちばん遊んだ作品が、いちばんいいんです。設置場所についても、ここに絶対置いとかなあかん、と言ひ張るのでなくて、作家側の意識の改革も必要ですね。

松尾 最近、私の知っている人が彫刻のリースを頼んできました。彫刻作品は日本の全国で求められているのですから、もつと先進的な考えをもつとしたら、神戸市が全国にリースしましょうというシステムをつくれればいいんです。作品が飽和状態になったとき、公園でプールしておいて、全国ヘリースする。作家にもロイヤリティーとしてリース料の一部を支払う。そもそも神戸のミナトは異種文化が入ってきたロイヤリティーがエネルギーの源になっているんですから、これぐらいの発想がほしいですね。

それに、彫刻ひとすじにつきこみたいという若い世代

は全国にいったいいけるわけですね。須磨離宮も第10回を迎えたら、あとはビエンナーレからトリエンナーレにかけて3年毎のイベントにする。その余力を今度は若い世代を育てる分にとわりあてるんです。若者が自由に参加できるシステムを神戸が全国的スケールでやる。これは地元神戸に対する文化還元です。地元自体の文化のクオリティも高め、次のジエネレーションづくりが街づくりにもつながっていくキーポイントになるでしょうね。

増田(洋) 若い作家が彫刻によって文化づくりに参加していくという点は大切ですね。神戸文化ホールから湊川神社までの彫刻の道ももっと考えたいなと思うのは一昨年できたばかりの生田文化会館の例が非常にうまく行っているからです。高橋秀幸さんの作られた彫刻「ドンナ」が会館の入口にあって、洒落た若々しいシンボルになっているんです。この会館のホールで催されるコンサートが『ドンナホール・コンサート』という名で、実に市民に親しまれています。愛称というんですか、呼びやすく可愛い。彫刻が全ての文化活動の中枢になってきているんです。

増田(正) 神戸というと六甲山の南斜面を考える、旧市街地的な目のやり方から、今度のワイン工場や総合運動公園など西神ニュータウンが注目されてきていますね。

小林 都市の形態からみて、神戸は他都市からうらやましがられていますね。今回の彫刻展のテーマは「くらしと彫刻」ですが、神戸では大きなものから、いろんな工夫ができて、神戸でしかなしえない所も多い。

速水 でも、神戸の土地柄のよさは別にして、横浜と比べると、まだまだ宿題は多いですよ。横浜ではビルが建つととにかく何かシンボルをつくる。そして、その総工費の1%を上積みして、作家と相談して作品を創るシステムになっています。それに、作家の好きなことを自由にさせてもらえるわけだ。つまり、彫刻が先で、建物の方向づけをするんです。

増田(正) 空地があるから彫刻を——でなく、この彫刻

を生かせるためには周辺をどうすればいいか、が、よい街なみを形づくっていくんですね。

松尾 彫刻はまだ置き物の意識でしかみていないからダメなんですよ。横浜は東京の衛星都市だからエネルギーで切り換えも早い。神戸は北野町とかファッションとかで、男性的なエネルギーが欠落しているように感じますね。山から石のかたまりを転がしてくるエネルギーが今の神戸に必要なんです。

速水 須磨離宮も10回を契機にもっと実験を試みるべきだ。たとえば、全国から集まった作品を、作家に対してあなたなら、神戸の街のどこに設置したいか、というところで、作品と都市との関連を含めた審査も面白い。

柳原 ユニバーシアード神戸大会の行なわれる西区もその範囲で考えることもできますね。ユニバーシアードを単にスポーツの祭典として捉えるのではなく、トータルに都市空間づくりのイベントとしてあってほしいですね。

私、明治生れの神戸っ子が神戸へ戻ってくる度に神戸が着実に前進しているから、いつもびっくりです(笑)。

速水 神戸はそこが魅力ですね。高松でつくられた、イサム・ノグチの彫刻がアメリカへ渡って、今度は神戸税関を通して日本で売れるのだから、今度は逆に神戸から文化の輸出をするべきです。

小林 日本の作品が神戸から出ていって海外で見ることができれば、本当に面白いですね。

松尾 日本から外国へ出ている企業は多いですから、堂々と日本のものを買い入れて、日本の彫刻もこんなにいいんだと誇りにしてもらいたいですね。神戸市は、ワインとか、水とかやっているんだし、神戸ブランドで世界へ彫刻も売ればどうですか。

増田(洋) そのくらいの心づもりが、確かに必要かもしれませんね。須磨のビエンナーレも20周年には、新しい方向づけが必要です。それは、彫刻が神戸の街の中にとけこみ、市民に親しまれていくためのものにと願う次第ですね。

(59年10月1日 須磨寺・寿楼にて)

田崎真珠㈱

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町6-3-2
TEL (078) 302-3321

㈱ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市中央区三宮町1丁目10-1
TEL (078) 332-3155

モロゾフ㈱

代表取締役会長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

㈱南インターナショナル

代表取締役 南 泰吉
神戸市中央区浜辺通5丁目1-14
神戸商工貿易センタービル1701
TEL (078) 232-1301



FASHION FAIR

君よ、神戸に、恋。

●オープニングパーティ

神戸のデザイナー集団KFC、KFMによる華やかなファッションショーを中心に開催。神戸トータルファッションフェアのプロローグを飾ります。

＜会費12,000円＞

●トータルファッション展

多くの人々をとらえ、魅了しつづけてきた神戸が世に問う神戸トータルファッションフェア。兵庫県、神戸市のファッション産業を一堂に会して、まさに百花繚乱。衣、食、住など生活文化に関わる各分野から、創造的な生活提案を競います。

＜入場無料＞

●バザール

オリジナリティあふれるグッズを集めたビッグバザール。お買い物、掘出しモノに遭遇できるチャンスがいっぱいです。屋外ステージではミュージックイベントを中心に、楽しいショーや市民参加でにぎわう催しも連日開催。あなたの飛び入りをお待ちしています。

＜入場無料＞

●シンポジウム

「都市文化と芸術」「神戸ファッションの魅力はどういかに」をテーマにした新しい生活文化を語っていただきます。

基調講演「都市文化と芸術」 木村重信氏(大阪大学教授)
パネルディスカッション「神戸ファッションの魅力はどういかに」●パネリスト：立巻長三氏(ナクトアトリエ代表)/田中国夫氏(関西学院大学教授)/水谷頼介氏(都市計画設計家)/宮本豊子氏(兵庫県生活科学研究所)/木村重信氏(大阪大学教授) ●コーディネーター：鈴木謙一氏(鈴木歯科器材社長、元日経論説副主幹)

＜入場料1,000円＞

●シアター

トータルファッションを動的なパフォーマンスで描写。ヴィジュアルイメージに訴える新しいライフスタイルの提案は、あなたの感性にきっとビビッとくるはずです。趣向をこらしたライブショーのなかで、生活スタイルリストとしての視点と感性を高めてみてください。

「第12回コウベファッションショー」コウベファッションデザインコンテスト「第12回コウベファッションショー」の受賞作品の発表と、参加者によるオリジナルショーの2部構成です。

＜入場料2,500円＞

テーマショー「神戸を語ろう'84」(ほかに、ブライダルショー、ファッションショー、ジャズ、など)

出演

：前田美波里、劇団神戸、今岡順子

舞踊団、神戸っ子サンバチーム、ジャズグループ、オペラグループ他
＜入場無料＞

●協賛事業

ホートアイランドのあちこちで開催されるファッションショー、スポーツ大会、ビッグイベントの数々。ホートアイランド全体がお祭り広場と化して、フェスティバルムードを盛り上げます。

「クリスマス観覧会コンテスト」各会員が工夫をこらしたデコレーションケーキの数々。パレンティン出品作品のコンテストも同時開催。

「アシックスファミリージョギングフェア」ジョギング大会、体力測定など盛沢山のスポーツイベント。

種目：ロードレースの部(10km)ファミリーの部(5km/ペア) インターナショナル駅伝(10km/女子2名を含む5人チーム)

「ホルスト・ヤンセン版画・ポスター展」(11/14⑧～21⑧も開催)ホルスト・ヤンセン氏の最新版画約120点、ポスター約120点を一挙公開。ご希望の方には販売もいたします。

「国際サンバフェスティバル」サンバコンテストおよびプロのサンバチームを招待してのアトラクション。



ファッション都市神戸が咲きます。

K O B E T O T A L



神戸トータルファッションフェア

11月21日(水)・22日(木)→25日(日)

会場:ポートアイランド

主催:神戸トータルファッションフェア協議会
(構成団体:兵庫県・神戸市・神戸商工会議所ほか25団体)

80の企業・団体がステキな生活を提案します。

11月	21(水)	22(木)	23(金)	24(土)	25(日)
トータルファッション展 (神戸国際展示場1階・2階)			■AM10:00~PM6:00		
バザール (市民広場)			■AM10:00~PM6:00		
シアター (神戸国際展示場 2階)			テーマショー「神戸を語るう」M・前田美波里(23日・24日)劇団神戸・湯井一葉(予定)ほか		
		「第12回神戸ファッションショー」 ■PM0:00~PM3:00~ PM6:00~(3回公演)	ジャズ 「サウスサイドジャズ」 「ブライダルショー」	ジャズ 「キャンディ浅田他」 毛皮ショー	ジャズ「タイムファイブ」
協賛事業		「クリスマス観覧会コンテスト」 ■PM0:00~PM4:00 ■ポルティコ	「クリスマス観覧会コンテスト」 ■AM10:00~PM4:00 ■ポルティコ	「ホルストヤンセン版画・ポスター展」 ■AM10:00~PM6:00	■ポルティコ
シンポジウム (田崎ホール)	講演「都市文化と芸術」 パネルディスカッション 神戸ファッションの魅力 をどういふか ■PM1:30~5:00		「アソックスファミリージョギングフェア」 ■AM8:30~PM1:30 ■ポートアイランド内特設コース		「国際サンバフェスティバル」 ■PM1:00~PM4:30 ■ワールド記念ホール
オープニング パーティ (神戸ポートホテル(備案の間))	■PM5:30~8:00				

- ラッキープレゼント/招待状持参の方に限り、ハワイ旅行ほか豪華景品が当たるラッキー抽選会を実施します。☆招待状ご希望の方は事務局まで TEL078-251-1001
- お楽しみ抽選/ご来場の方にスタンプラリーのお楽しみ。会場内4ヶ所に設置されたスタンプをすべて捺印された方に抽選で、もちろん景品をプレゼント。
- 無料バスの運行/三宮(神戸新聞会館北側)から会場まで無料バスを運行します(11月22日~25日)。運行時間は午前9時から午後6時30分まで、15分から20分間隔で運行します。

●お問い合わせは、神戸トータルファッションフェア協議会事務局まで TEL078(251)1001(神戸商工会議所内)

わしはゴキブリを絶滅させることをあきらめ
ゴキブリとは共存することにした
そのためには ゴキブリにも
愛らしい存在であってほしい



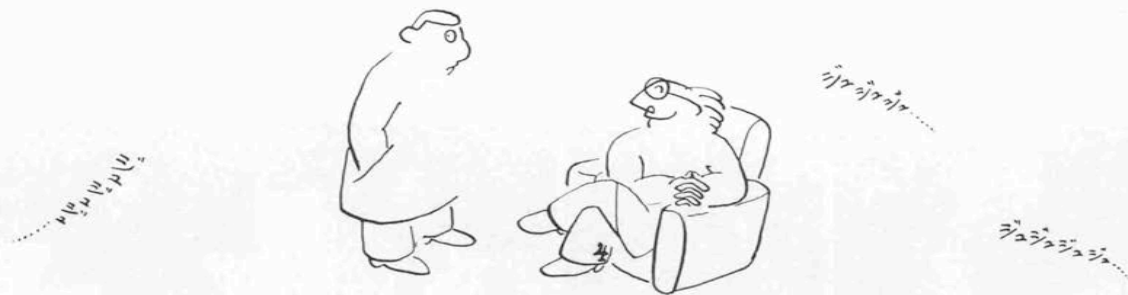
なんです？ これ



ゴキブリの鳴き声じゃ
かわいいもんじゃろう



ゴキブリが愛されないのは
かわいい鳴き声か
なかったからではなかろうか
このアメは なめたゴキブリの のどを
やさしく刺激し 鳴き声を持たせるのじゃ
わしは 部屋のあちこちに
このアメをばらまいたのだ



自分のことを
勝手なやつだと思いませんか？



鳴き声のせいで
かくれていてもすぐにわかるわい

FASHION ● REPORT
LIZA EUROPE EXCELLENT COLLECTION '84-'85

大人の知的エレガンス



神戸ファッションのリーダーとして注目を浴びているリザが9月10日、オリエンタルホテルで、ファッションショーを開催。テーマは「秋／冬ヨーロッパエクセレントコレクション'84-'85」

「リザ・サロン」が一点一点厳選したブランド、インポート一流ブランドからファッションまでの数々、アダルトな女らしさを強調したヨーロッパのエレガンスムードいっぱい、のショーに観客のため息が感じられた。このコレクションは、同社の創立10周年を記念したもので、東京、大阪、宮崎など全国8カ所で披露された。



笑顔が素敵な山下マネージャー。

「今年のコレクションでは、お客様に身近に感じてもらう、すぐにも着ていただけるようなものを選んでおります。同じデザインでも、着る人によって雰囲気がいぶん変わりますので、ご自分の感性に合わせて自分らしさを表現してほしいですね」と山下千世神戸本店マルケーズサロンマネージャー。

シンプルだけれどほんのちよとしたところに心憎い工夫が凝らされているリザの洋服は、知的エレガンスを演出したい大人の女性にピッタリ。いいものと出逢う時女性はいつも輝きに満ちる…。本当ですね！

FASHION ● REPORT

'84秋冬魔女コレクション ヘルシーに生きるエレガントなシンプルさ



9月18日(火)、北野町「利宮」において、K・F・M八神戸ファッションモデリスト／会員大里最世子(ブティック魔女オーナー)さんによる、——'84秋冬物魔女コレクション——が開かれ、小田イタル氏のピアノとともに神戸エレガンスの漂う約40点の新作が披露された。

今秋のテーマは「海底遊歩」。この夏タチヒ島で美しい熱帯魚にかこまれ、海の底にいながら考えたことが、「余分なものを切り捨て、ヘルシーに生きる。その上に、シンプルさを基準としたスポーティエレガンスを生かせよう」ということだ。



大里最世子先生

40点の新作の中心は、イギリスレースやフランスレースを使用したブラウス、女らしさを感じさせる6枚はぎのスカート、人皮革革を利用したパンツやタイトスカートなどふんだんで、ラストには、豪華なフォーマルウエアまでが登場した。なかでも特に目立ったのは、代表作ともいえるブラウスで、「冬にこそ、白いレースのブラウスを着ていただきたいです」と、大里さんは語る。魔女の作品群は、ヘルシーに生きる女性の誇りを感じさせてくれた。

今秋より、オリジナルブランド「サマンサ」も登場している。

第1回月神戸っ子写真コンテスト、神戸の風景シリーズ

●選考座談会

新しい神戸、新しい視点の創意工夫を



審査員
小山 保



審査員
堀内初太郎



審査員
緒方しげを

—写真コンテスト夏シリーズの選考会が終わったところで、各先生に総評をお願いします。

緒方 夏に相応しい作品が思ったほどなかったですね。いかに「新しい神戸の夏」を撮るかの兼ね合いが難しかったようだ。

堀内 確かに季節感が乏しかった視点にも新しいものがない。

小山 第一回だから応募者側にテーマの把握ができてなかったのかもしれない。

緒方 夏の季節感の幅がない。風景にしろ生活にしろもっと広げてほしい。広い意味での解釈を望みたい。

堀内 撮りためたものから提出するからニュービジョンがないんだ新しいものを撮ってほしいね。

緒方 新しいといえばポートアイランドの写真がずいぶんあったねやはり建造物など新しいからかな堀内 推薦に選ばれた井上知さんの「青空に飛ぶ」はワールド記念ホールでした。建物の新しさに加えてヘリコプターがインパクトがあった。ダイナミックな迫力があつたね。

緒方 構成もビシッとまとまっていた。ヘリコプターの写真は他にもあったけれど、やっぱりコレですね。ただ、難点は季節感がわからないことかな。

李慧枝さんの「夏の夜」(特選)

は逆に夏の季節感が出ていたね。人物の配置もよかったと思う。

—若い女性だけに期待もできま
すね。

緒方 行事を細かく見つけて撮っていくこと。写真は「発見」です。

小山 原宏洋さんの「垂水海神社祭礼」(特選)は海神社の雰囲気がよく出ていた。ペテランらしく構成、描写とも精密だったが新しさに配慮がなかった。稗田重成さんの「落日三橋」(特選)もよかったが、三枚の組写真のうち一枚目の写真がよくなかった点が惜しい。堀内 いい作品だが視覚的な面で新しさが無い。古臭いパターンだと思う。

緒方 アングルを考えることが大切ですね。

神戸の場合、斜面の街だから、いろいろ工夫すればおもしろいアングルを探せると思う。

小山 新しい神戸を新しい視覚できりとることに つきるね。

それとファッションの写真が少なかつたですね。さらに若い人の写真が少くない。どうも若い人にはいはずさがない。

緒方 軽く感性で撮っている気がするんだ。

堀内 どんな撮り方でもいいからさっきおっしゃられたようにいちずに撮ってほしい。方向性が決ま
っていない。ただ、これは神戸に

限らず日本全体に伝えることでずがね。

小山 確かに今は目移りしやすい時代ですけど、僕らも若いときはいちずさがあったものです。

堀内 あるいつときいちずさがないと視野が広がっていかない。やっぱり自分の方向性を明確にしてほしいと思う。楽しみでやってくれるのは構わないが自分だけで楽

しんでもらっては困る。やはり見る側も楽しませてくれないと……

小山 驚かしてもいいし泣かせてもいいから。どうも自分だけ驚いているようなきらいがある。

堀内 神戸は日本的にもレベルが高いところなんですから……

——写真やイメージのある街なんでしょうね。

緒方 国際都市ですから吸収する

推薦

月刊神戸っ子賞(5万円)

井上 知

「青空に飛ぶ」



特選

月刊神戸っ子賞(2万円)

稗田重成

「落日三橋」



特選

月刊神戸っ子賞(2万円)

原宏洋

「垂水海神社祭礼」



特選

月刊神戸っ子賞(2万円)

李 慧枝

「夏の夜」



部分も多いし変化も多い。おもしろい被写体もたくさんあります。

小山 神戸生まれの人間は粘りがないから、大作に取り組む姿勢が弱い。僕なんかまさにその典型でして(笑い)。

緒方 新しい季節感、新しい視点をもらった作品を次も期待します。

■なお入賞作品は十一月一日から十日間にわたり北野パールギャラリーで公開されます。

★月刊神戸っ子賞

入選10名(5千円)

佳作30名(フジカラー賞)

入選 入江 康之 金本 孔俊

松村 悦郎③ 服部 登

福田 太加志 川口 小左男

林 茂夫 大西 将文

大上 正雄 鎌田 忠志②

大西 満也 高木 吉利雄②

天野 正子 榊田 吉雄②

島本 佳行 藤井 義也

土屋 秀一 山 順作

●佳作 若原 忠三

高木 賢夫 浅田 敏夫

井戸 孝孝 枇杷木 孝文

林 徳次② 北村 輝雄

碓氷 彬雄 津崎 雅英

竹内 弘弘 西田 叔弘

松村 悦郎 玉石 忠正

小林 悦保 〇内数字は作品点

小倉 まきの 数

小倉 美清 (応募順)

春夏秋冬神戸風景 神戸の風景 秋シリーズ 写真コンテスト 作品募集

主催 月刊神戸っ子

応募要項

題材 新しい神戸の秋の風景、生活などを、あらゆる角度からねらった新作を募集します。

サイズ 白黒、カラープリントは四ツ切、組は5枚以内、カラーズライドは35%版以上

募集締切 昭和59年11月30日(当日消印有効)

受付場所 月刊神戸っ子編集室
(郵送、又は持参のこと)

審査 堀内初太郎先生、緒方しげを先生
小山 保先生、小泉 康夫

発表 締切り日の翌月、応募者に直接通知いたします。

展示 ギャラリー神戸時代

賞

- 推薦 1名 月刊神戸っ子賞(賞金5万円)
- 特選 3名 月刊神戸っ子賞(賞金2万円)
- 入選 10名 月刊神戸っ子賞(賞金5千円)

細 則

- 応募作品は未発表のもの、または他に発表予定のないものに限ります。
- 入賞作品の著作権は主催者に属します。
- モデル撮影の場合は、本人の同意を受けて下さい。
- 入賞作品のネガは通知があり次第主催者に送っていただきます。
- 応募作品は返却いたしません。

新しい神戸の風景写真コンテスト		
題名		
住所		
氏名	男・女	歳
カメラ	レンズ	
絞り	シャッター	
フィルム	印画紙	
撮影年月日	撮影場所	
取扱材料店名		

左図のよう
な見本の
作品の裏
に貼付
けてくだ
さい

経済ボケツ ジャーナル



★京阪神ファッションシ

ンボジウム催される
京阪神ファッションマン
スの一環としてシンポジウ
ム「ときめきのファッショ
ンビジネス」が十月八日、
田崎ホールで催された。基



パネラーたちが議論

調講演で浜
野宏氏は
バリにお
ける日本
デザイナー
の優位性
を強調し
、しかし

「日本のメ
ーカ、流通業界はブランド
が多すぎと思う。単一の
ブランドに自信をもて」と
の批判も展開した。

この基調講演をもとに、

畑崎廣敏ワールド社長、脇
田周輔ロンシャン社長、清
水貞保メルボ社長、尾原蓉
子旭化成企画室長の各パネ
ラーが議論、ファッショ
ンの将来性を語り合った。

★米領事館61年秋に

大阪へ移転決定!

神戸市中央区、東遊園地
の南にあるアメリカ領事館
神戸まつりのコースとして
市民に親しまれてきた星条
旗のはためく建物だったが
8月末、大阪市内への移転
新設と同館員住宅新設計画
が、デベロッパの嶺南イ
ンターナショナルから発表
され、ミナト神戸の名物を
惜しむ声と新設領事館への
期待とで大きな話題となっ
ている。発表によると新領
事館は大阪市北区西天満の
新御堂筋に面し国鉄大阪駅



米領事館予想図

から徒歩7分の場所。一方
残された神戸の領事館跡は
文化的拠点となる予定だ。

★設計・施工のタケツ工
が新社屋を竣工

創業11年を迎えたタケツ

嶺の新社屋が武庫之荘に
完成、10月11日に披露パ
ティが行われた。



はりきる小中村社長

小中村政廣社長は「ハー
ドな箱(マンション)だけ
でなく、生活全般の提案を

通してお客のニーズに応え
たい」との姿勢を打ち出し
た。そして同社専属ライフ
コーディネーターのフラン
ソワーズ・モレシャンさん
が「タケツは創造力にあ
ふれ、安心感がある。そし
て未来を向いていて素晴ら
しい」と盛んにPR。

新社屋は地上三階、地下
一階。地下部分は一一般にも
開放している。

★三菱重工が自動車運搬

★KOBEOフィスレディ★



丸山のぶさん(19)
〈三ノ宮駅旅行センター〉

「いい旅行をしていただくためにはまず
宿からです」と秘訣を伝授。「お客様と納
得のいくプラン作りが楽しい。でも旅行
後クレームがつくと…」顔で笑って心で
泣く。そこは持ち前の底抜けの明るさで
頑張ってしまう。山手女子高校を出て一
年半。楽しくなってきたところ。男性は平
田満のような心優しい人が。垂水区在住。

船を引渡し。

三菱重工は八光海運
から受注の自動車運搬船
「ダイヤモンド ハイウェ
ー」を九月十二日に進水、
また同二十一日には「マ
ブル ハイウェー」を引き
渡した。両船の総トン数は
前者が三三、五〇〇ト、後
者が三三、一三ト。

引き渡しされた「マブル
ル」号は自動車三、二六〇
台積みで、大型バス、トラ



「マブル ハイウェー」号
高重量物も
積載可能と
か。またC
KD(自動
車半完成部
品梱包)も
可能で、モ
ーターゼ
ーションの

輸出入に活躍しそうだ。